

利尻島サイクルバスの運行

【発表者】石橋 徹(宗谷バス株式会社)

【連名者】中場 直見(宗谷バス株式会社)、杉川 毅(シーニックバイウェイ北海道 宗谷シーニックバイウェイ)、山本 博文(利尻富士町産業振興課)、小坂 勝哉(利尻町産業振興課)、芝崎 拓(一般社団法人北海道開発技術センター 調査研究部)

背景

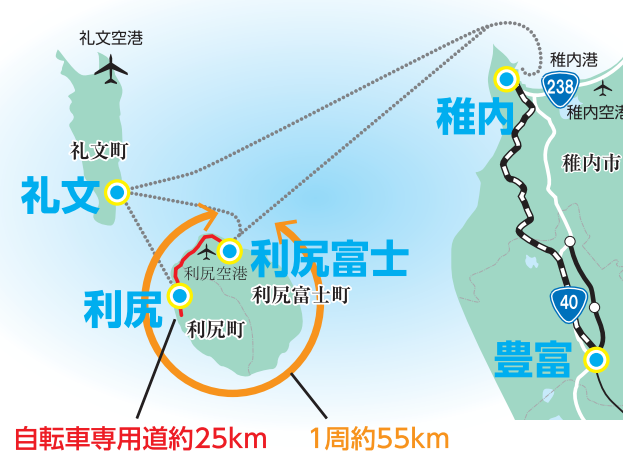
秀峰 利尻山を有する利尻島(利尻富士町・利尻町)には、約25kmの自転車専用道が整備され、島を一周する約55kmサイクリングコースを活用し、島の新たな観光としてサイクルツーリズムの推進を図っている。一般旅行者が気軽に島1周サイクリングを楽しめ、路線バスの観光利用を推進するために、バス車内に自転車をそのまま積載できるサービスを平成29年8月1日～10月31日に実施し、自転車と路線バスにより、島を1週できる自転車観光の実現を図った。



利尻山



礼文島すかい澄海岬



自転車専用道約25km 1周約55km

プロジェクトの内容

利尻島は時計回り・反時計回りの路線バスが合計10便運行しており、通学者の多い始発と終発を除く、合計6便が自転車をそのまま積載できるサイクルバスとした。積載スペースは、車いす用の折り畳み座席スペースを活用し、車いす利用がある場合は、車いす優先とした。利用は事前予約制とし、自転車の積載料金は1回あたり目的地までの運賃プラス500円。1DAYフリーパス(2,000円)購入者はプラス500円で自転車も含め乗り降り自由とした。車体に自転車マークを表示し、自転車積載できることを分かりやすくした。

1DAYフリーパスは自転車シールを貼り、乗り降り自由とした。



車両の前面・側面に自転車マークを貼った。



中扉から乗車し、前扉から降車する。



車いす用スペースに自転車を積載した。

効果

サイクルバスの利用者は、10名/台(延べ14名/台)であった。フリーパス利用者が5名/台(延べ9名/台)。自転車積算収入は5,000円であった。事前予約が5名/台(延べ8名/台)となっており、他の5名/台(延べ6名/台)は予約なしでの利用であった。外国人観光客は、2名/台(延べ2名/台)で、自転車の車種はスポーツタイプが8台(延べ12台)、ママチャリが2台(延べ2台)であった。利用区間はそれぞれバラバラであった。

自転車積載実績(H29 8/1～10/31)

予約	利用日		乗車区間	氏名	台数	性別	自転車種別	備考
無	8月2日	平日	A5便 大磯バス停～野塚バス停	外国人(2名)	2	男	ママチャリ	言葉通じず諸条件の説明ができなかった バス運賃+500円
無	8月22日	//	A2便 鯉泊～鬼脇	日本人(1名)	1	女	ロード	ワンデイ+500円 セット券利用
//	//	//	A3便 鬼脇～仙法師	//	//	//	//	//
//	//	//	B4便 仙法師本町～温泉(鯉泊)	//	//	//	//	//
有	9月9日	//	B4便 沓形FT～仙法志	日本人(2名)	2	男	ロード・MB	2名ワンデイ+500円 セット券利用
有	//	//	A4便 二つ石周辺～姫沼口	//	2	男	ロード・MB	2名ワンデイ+500円 セット券利用
有	9月17日	//	A4便 沓形FT～鯉泊FT	日本人(2名)	2	男	MB	直前に予約電話あり バス運賃+500円
無	10月17日	//	A4便 沓形BT～鯉泊FT	日本人(1名)	1	男	ロード	事前に問い合わせあり バス運賃+500円
有	10月21日	//	B4便 沓形BT～御崎公園	日本人(2名)	2	男・女	B4便	「サイクリングエコモビリティ」試走調査のため セット券利用

結論

新たなサービスとして予約受付や運転手の対応などの、オペレーションに若干の不安を抱える中で取り組みであったが、円滑に対応することができた。事前周知の充実のほか、車内の自転車固定にかかる時間の縮減、利用者が多くなった際の対応など、今後の課題を把握することができた。サイクルバスの運行等により、自転車観光に優しい島としての認知度が高まり、利尻島の観光活性化とバス利用者の増加が期待される。